

雲のうへにきくほりうへてかひのくにつるのこほりをうつしてぞみる

此歌注云、風土記に甲斐國鶴郡有菊花山、流水洗菊、飲其水入壽如鶴云々、

〔二〕中歴八産所、聚粥詞、男子〇中略

問、然者甲斐國鶴郡仁作氏布、永彦乃稻乃粥、永久、嘜、良、幸、

〔倭名類聚抄六國郡〕甲斐國、山梨郡、於會、能呂、林戶波也、井上倍井乃、玉井多萬乃井、已上五、石禾

伊佐、表門字波止、山梨也萬奈之、加美、大野於保乃、已上五、

八代郡、長江奈加、白井之良、沼尾奴萬平、川合加波、八代也都、

巨麻郡、等力止々木、速見見倍、栗原波久利、青沼奴萬平、眞衣萬木乃、國用、大井於保、市川以知、川合加波、餘

戸、都留郡、相模〇高山寺本、有左加无乃訓、古郡、福地〇高山寺本、有布久知訓、多良〇高山寺本、有太波良訓、賀美、征茂、都留

〔甲斐叢記一〕郷名

山梨郡十七

和名抄に見えたるは十なり、今現に本郡に隸る郷のみを擧て、毎郷これの下におなじ、

山梨西郡、郡名の起る所なり

表門同上、今は万力筋に隸り、東は石和郷、北は山梨郷にて山前を疆とし、中郡の國、玉里吉の邊

是に屬く、上代の府治酒折の端門に向ふ地故、表門とは呼しならん、

加美同上、山梨岡の北にある故に上と云義なり、又一説に、八幡村より北すべて此郷に屬く、笛

吹川の上流なれば、上と唱ふるならんといふ、

竈かまど、又竈之郷とも、釜戸とも作けり、天正十一年、市河半兵衛、河西孫右衛門等賜はりし尊章に見

えたるは、即ち釜口村なりと云、〇中略

大野西郡、村名にて今に存れり、本村より東北に廣く唱たる名なるべし、